

22の重点推進施策に係る数値目標一覧

業務指標	指標の持つ意味	現状 平成19年度	目標 平成29年度
I-1 有収率	年間の給水量に対する料金収入の対象となる水量(有収水量)の割合。高い方が良い。	86.0% ⇒	90%
I-2 高度浄水処理された水道水の給水割合	年間の給水量のうち高度浄水処理された給水量の割合。高い方がより広く給水されていることになる。	0% ⇒	50%
I-3 道路部分の鉛製給水管の割合	給水管のうち、道路部分に鉛製の給水管を使用している件数の割合。低い方が良い。	32% ⇒	0%
I-4 雨水整備率 (10年確率降雨対応)	雨水整備の計画面積に対する浸水対策済面積の割合。高い方が良い。	15.1% ⇒	40%
I-5, III-3 管路の耐震化率 (水道)	耐震化された水道管路の割合。高い方が良い。	6.5% ⇒	14%
I-5, III-3 経年管(戦前に布設した管路)対策率 (下水道)	経年管対策された下水道管路の割合。高い方が良い。	68.0% ⇒	89%
I-5 施設(建築)の耐震化率 (下水道)	耐震化された下水道施設(建築)の割合。高い方が良い。	58.1% ⇒	96%
II-1 高度処理人口普及率 (下水道)	高度処理の普及割合。高い方が良い。	45.9% ⇒	55%
II-1 窒素高度処理率 (下水道)	窒素除去の高度処理の割合。高い方が良い。	14.1% ⇒	30%
II-2 合流式下水道改善率	合流式下水道の改善割合。高い方が良い。	25.2% ⇒	70%
II-2 雨水吐改善率	雨水吐の改善割合。高い方が良い。	7.0% ⇒	90%
II-3 下水道人口普及率	下水道の普及割合。高い方が良い。	99.1% ⇒	99.5%
III-1 浄水施設最大稼働率	1日当たりの浄水処理能力に対する1日最大給水量の割合。高い方がより効率的。	65.7% ⇒	81%
III-3 強度の劣る鑄鉄管の残存割合	配水管のうち、強度の劣る鑄鉄管の残存する割合。低い方が良い。	0.7% ⇒	0% (平成24年度)

注) 水道事業に関する指標、下水道事業に関する指標

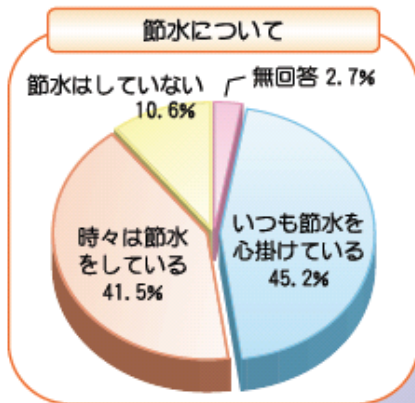
なお、業務指標欄の数字は関連する項目を示す。(例 I-1 施策目標 I の重点推進施策 1)

京（みやこ）の水ビジョン策定まで

私たち京都市上下水道局では、「市民の皆さまの声」を大切に、今後10年間に取り組むべき課題や目標をまとめ、「京（みやこ）の水ビジョン」を策定しました。

水に関するアンケート調査（回答1,989件）

〔市民の皆さまの水の使用実態や意識、上下水道事業に対する要望等を把握するために実施した意識調査〕
平成18年度



第1～4期 上下水道モニター（参加者計120名）

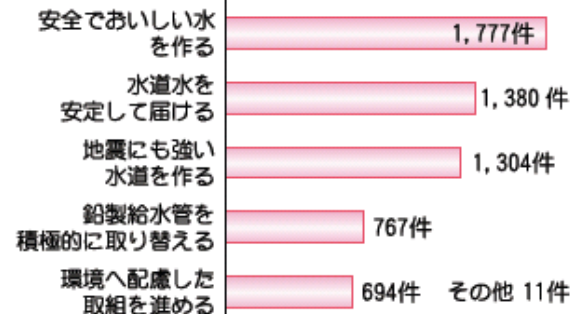
〔1年を通じて上下水道施設の見学会や懇談会へ参加いただき、意識調査やモニターレポートを提出していただくモニター制度〕
平成15・16～19年度

- ・「経営努力は必要でも限界があると思う。厳しい仕事だと痛感した。私たちも、無駄な水は使えないと思う」
- ・「施設が24時間フル稼働で、職員配置が大変では。特に夜間勤務には、市民サービスの使命感が必要だと思います」

蹴上浄水場・鳥羽水環境保全センター

一般公開アンケート（回答3,309件）
〔施設の一般公開の来場者の方に実施したアンケート〕
平成19年度（4・5月）

水道事業に期待されることは何ですか？



パブリック・コメントの募集（15名/31件）

〔京都市上下水道ビジョン（仮称）の骨子案についての意見募集〕
平成19年度（10月～11月）

- ・「異臭問題解消のための高度浄水処理施設の段階的の整備については急いでほしい」
- ・「地震などの災害に強い水道・下水道の整備は急務だと思う」
- ・「市民に切実な課題を説明して、市民の責任を示し、率直に協力を求めるという、行政として、新しい一歩を踏み出されることを期待します」

学識者からのご意見

〔水道・下水道の専門の4名の学識者の先生方のご意見〕
平成19年度（11月）

- ・「琵琶湖の問題は琵琶湖の周辺だけでは解決しない。京都市はいい位置にあると思う。下流域の痛みも理解でき、下流への責任も持たれているポジションにある。リーダーシップを発揮されるべきではないかと思う」
- ・「パートナーシップについては市民との関わりで、利用者との関係も重要。市民にやってもらうこともある」

